

千葉県立農業大学校の概要

1 本校の設置者

「千葉県立農業大学校設置管理条例」及び「千葉県立農業大学校管理規則」に基づいて千葉県が設置しています。

2 本校の特徴

農林水産省所管の農業改良助長法に基づく「農業者研修教育施設」であり、以下の特徴を有しています。

- (1) 本校は、千葉県農業の担い手を養成する中核的な機関として位置付けられています。
- (2) 本校は、千葉県農業に関わる行政、普及機関、試験研究機関との連携強化を図っています。
- (3) 授業時間の割合は、講義・実験・演習が概ね50%、実習が概ね50%であり、実習を重視した実践的な農業教育を行っています。
- (4) 専攻コースとして、11の多彩な専攻教室（作物、施設野菜、露地野菜、果樹園芸、花き園芸、畜産、情報経営、食品加工、生物工学、土壌肥料、病害虫）を設けています。
- (5) 千葉県における就農準備資金の研修機関に認定されています。
- (6) 農学科1学年全員が「寮生活」を送り、自立と協調の精神、リーダーシップ等のかん養を図ります。

3 「専修学校」のメリット

本校は、文部科学省所管の学校教育法に基づく専修学校で、以下のメリットがあります。

- (1) 卒業生には、農学科、研究科ともに「専門士」の称号を授与します。
- (2) 4年制大学への編入が可能です。
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構等の奨学金制度が利用できます。
- (4) 職業安定法に基づく無料職業紹介事業を行っています。

4 農学科及び研究科の概要

(1) 農業専門課程 農学科

ア 修業年限は2年、定員は1学年80名、2学年80名、計160名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は112単位以上、授業時間数は2,400時間以上です。

ウ 農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成します。

エ 広い視野を持つための教養科目と農業に関連した専門科目が両立しています。

オ 「農場実習」、「食品加工実習」、「専攻実習」などの実習により、農業又は農業関連産業などで即戦力となる知識と技術を学べます。

カ 「農業派遣実習」により、先進農家で実地の農業を体験できます。

キ 「国際農業実習」により、国際感覚を身に付け、異なる気候条件や社会・経済条件の下で行われる農業を体験できます。

ク 1学年の前期は、全ての分野で農場実習を行い、幅広く実践的に学びます。後期から専攻教室に所属し、興味・関心のある分野を掘り下げて学習します。

ケ 2学年では、所属する専攻教室で、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、卒業論文をとりまとめます。

コ 「キャリア基礎講座」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

(2) 農業専門課程 研究科

ア 修業年限は2年、定員は1学年20名、2学年20名、計40名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は105単位以上、授業時間数は2,550時間以上です。

ウ 農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成します。

エ カリキュラムの中で、農産物の生産から流通までの過程を総合的に学習できます。

オ 1学年から専攻教室に所属して、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、研究成果をとりまとめます。

カ 生徒が運営する「千葉農大商店模擬会社」を通じて、起業・流通・販売の企業的なアグリビジネスを実践できます。

キ 「インターンシップ研修」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

校訓

「志農創造」

農業を志した以上は、常に高い理想のもとに国際化、技術革新・情報化など、時代の要求を的確にとらえ、旺盛な向学心を持って新しい農業を創造し、その使命に応える農業人とならなければならない。

教育理念

本校は、千葉県農業の発展に寄与する優れた担い手及び指導者の育成を教育目標に掲げ、次の4つを教育理念としています。

- 広い視野を持つ豊かな人間性の形成
- 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得
- 地域社会における指導者としての資質の養成
- 土に根ざした実践力のかん養

沿革

本校の前身である千葉県農業大学校は、農業短期大学校と農業経営短期大学校を統合し、昭和54年に本県唯一の農業者研修教育施設として、東金市に開校しました。その後、平成24年に専修学校「千葉県立農業大学校」となりました。これまでに3,400名の卒業生を社会に送り出しています。

大学校の組織

千葉県立農業大学校

庶務教務課

大学校の庶務全般をはじめ、施設の維持管理や授業料、奨学金、諸証明等に関する事務、入学試験、就農・就職支援などを行います。

農学科 P.8

2年間で農業に必要な基礎知識と基本技術を学びます。1年生の後期から専攻教室に配属し、それぞれの技術を習得します。1年生は全寮制で自主性や協調性を養います。
(入学生募集) 高等学校を卒業した方、卒業予定の方が主な対象です。

研究科 P.11

農業経営に必要な「経営」や「販売」について千葉農大商店模擬会社の運営に携わりながら、農業経営を学びます。
(入学生募集) 農学科、農業系短期大学を卒業した方、卒業予定の方が対象です。

農業研修校 P.20

県内で新たに就農しようとする方が、平日に専門的な講義と実習を受講する「農業者養成研修(3・6・12か月)」、土曜日を利用して農作業を体験し、基礎的な農業知識を習得する「就農準備講座(7日間)」など、実践的な研修を行います。

機械化研修科 P.21

農業者や新規就農希望者を対象に農業機械の安全操作等に関する各種研修や、トラクター運転免許、けん引運転免許の取得に向けた研修などを行います。

施設の概要

本校は、本館、体育館、学生寮等の施設、学習に必要な設備、実習農場等を備えています。

● 本校施設(東金市家之子)

建物・施設 7ha
実習農場等 8ha



広々とした大講義室



日当たりのよい学生寮

● 農業研修施設(東金市油井)

実習農場等 4ha

● 農業機械化研修施設(千葉市緑区)

運転技能研修コース 4ha



建ち並ぶハウス群

千葉県立農業大学校の魅力

温暖な気候と豊かな大地に恵まれた千葉県は全国有数の農業県であり、当校の多くの卒業生が県内の農業分野で働いています。このような恵まれた環境の中で実践的な農業を学ぶことができます。

充実したカリキュラム

●幅広く学べるカリキュラム構成

農産物の生産、家畜の飼育をはじめマーケティング、スマート農業、食品加工等農業に関する知識を幅広く習得できるカリキュラムとなっています。

※詳細は8ページをご覧ください。



キャリアサポート実習

●進路決定をサポートするキャリア教育

就農・就職するために必要な知識を身に付けるために、充実したサポートを提供しています。(⇒10ページ)

◆進路相談・無料職業紹介事業(農学科、研究科)

相談室でいつでも行っています。求人情報の掲示、校内企業説明会の開催や企業現地説明会等を紹介しています。

◆教養基礎講座・一般教養科目(農学科、研究科)

本県農業の優れた担い手・指導者となるために必要な一般教養を身に付けます。また、就農・就職に必要な、免許・資格を取得します。(農学科⇒8ページ 研究科⇒11ページ)

◆キャリアサポート実習(農学科)

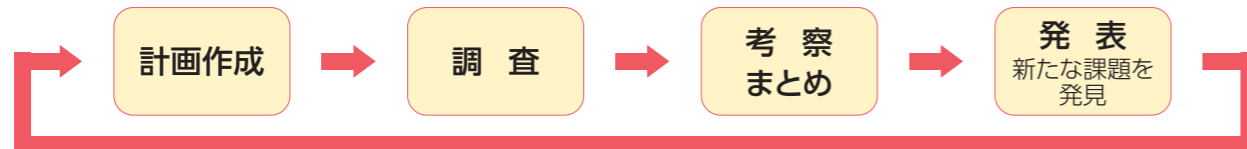
雇用就農や、農業関係会社への就職、自家・自立就農に参考となる、県内産地、農業法人、農業関連会社への現地視察、研修を行います。

◆キャリア基礎講座(農学科)

就職活動の基礎知識を身に付けます。(ライフプランの策定、自己分析、求人票の見方、面接練習、面接カード・履歴書の書き方など)

●課題解決型学習の取組

自ら課題を設定し、栽培等計画を作成。課題に基づく調査・研究を行い、成果をまとめ・分析し、課題を解決していく学習を実施しています。



実践農業の体験学習

●先進農家等への派遣実習(農学科)

「農業派遣実習」では、優れた農業経営体で、一定期間仕事や生活を共にし、農業の優れた栽培技術や農家生活などを学びます。



農業派遣実習

●海外農業を学ぶ実習(農学科)

「国際農業実習」では、海外の農業現場を視察したり、現地の学生との交流等を通じて海外の文化に触れ、国際的な農業の課題や価値観の違いを学びます。また、グループで課題に取り組むことで、グループ活動能力やコミュニケーション能力を養います。



国際農業実習

●インターンシップ研修(研究科)

「インターンシップ研修」では、優れた農業経営体や農業関連企業・機関等で職場体験を行い、職業観の醸成、経営や販売戦略、消費者重視の生産、流通、地域づくりなどを実践的に学びます。

少ない経費負担

経済的な負担を軽減し、無理なく学べる環境を整えています。経費には寮で生活するための食費や光熱水費等も含まれています。また、在学中に下記の支援を受けることが可能です。

- ・日本学生支援機構等の奨学金
- ・就農準備資金(就農予定者が対象、条件有)

農学科1年生の経費(令和8年度計画)

項目	年額(円)
入学金	5,650
授業料	118,800
寮費、寮光熱水費	61,200
諸経費(寮食費、自治会費、検定料等)	約428,000
保険、書籍、国際農業実習等	約250,000
合計	約864,000

※農学科2年生は、国際農業実習がないため、合計から約20万円減額となります。

多彩な11の専攻教室(農学科、研究科)

- ◆作物 ◆施設野菜 ◆露地野菜 ◆果樹園芸 ◆花き園芸 ◆畜産 ◆情報経営 ◆食品加工 ◆生物工学 ◆土壌肥料 ◆病害虫 ※詳細は12ページ以降をご覧ください。

ビジネス感覚を養う農業経営の学習

●専攻実習で直売を実践(農学科)

本校で生産した農畜産物や加工品の販売をとおして、生産から販売までの経営的な感覚を身に付けることができます。



農畜産物の直売

●農業経営を学ぶ「模擬会社」(研究科)

- ◆ブルーベリー観光農園など、農業経営実習の授業で模擬会社を運営

専修学校のメリット

- ◆専門士(農業専門課程)の称号を付与
- ◆4年制大学への編入学が可能
- ◆日本学生支援機構等の奨学金制度が利用可能
- ◆職業安定法に基づく無料職業紹介
- ◆試験研究経験者・農業指導者による指導



研究経験者・農業指導者の授業

多様な免許・資格の取得

- ◆トラクター ◆農業機械士 ◆小型車両系建設機械 ◆フォークリフト ◆けん引(農耕車限定) ◆家畜人工授精師 ◆家畜商 ◆日本農業技術検定 ◆日商簿記 ◆毒物劇物取扱者 ◆食品衛生責任者 ほか

※取得に別途経費が必要な免許・資格が含まれます。



トラクター免許研修

寮生活による仲間づくり

- ◆農学科1年生(全寮制)は寮生活により、協調性や自立心を養うことができます。 ※詳細は23ページをご覧ください。

スマート農業施設・機器を活用した実習

●環境制御ハウス

高さ5.3メートルのハウスで、養液栽培システムを導入しています。この施設では、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等を自動で制御することができます。スマートフォン等でハウス環境を整え、植物の管理をデータに基づいて行うなど、研究に有効活用しています。



●食味・収量センサ付きコンバイン

水稻や小麦を収穫しながら、ほ場ごとの水分とタンパクの含有率、収量をリアルタイムで測定することができます。



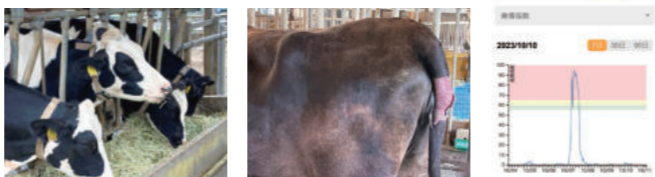
●スマート農業の授業

スマート農業実演・体験研修では、ドローン、自動運転トラクター、ラジコン草刈り機等の最新のスマート農業機械類の操作体験等を行います。

農業用ドローン操作研修では、無人航空機の法制度や飛行資格の取得手順、シミュレーションによる操作技術取得ができます。また、スマート農業の導入事例や現場で普及し始めているスマート機器などの先端技術を学ぶことができます。

●牛行動モニタリングシステム

牛の首や尾などに装着したセンサーによって、牛の採食や反芻^{はんそう}など様々な行動をモニタリングします。その蓄積データを解析することで、発情や疾病、分娩兆候を検知することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知され、学生は観察と照らし合わせながら牛を管理しています。



●GPS付きトラクター

測位衛星の情報を用いて自動でハンドルが動く「GPS自動操舵システム」により、誰でも高精度な直進作業が可能です。



GLOBALG.A.P.の取得推進

農業経営に必須な「労働安全」や「食品安全」、「環境保全」等のGAP(農業生産工程管理)の取組を実践するため、GLOBALG.A.P.認証取得を進めています。

令和6年7月には果樹園芸専攻教室で前年に引き続きブルーベリー、施設野菜専攻教室でイチゴの公開審査を受審し、9月に認証を取得しました。学生と教職員が一丸となり取り組み、農業散布や機械利用など全ての作業について、安全性が担保できる管理手順書の作成などを行いました。

今後も、幅広い品目でGAPの実践を進め、GLOBALG.A.P.認証の取得を目指していきます。



農場HACCPの取得

家畜の伝染病の発生予防・まん延防止及び畜産物の安全性確保のために、農場管理にHACCPの考え方を取り入れた農場HACCP認証を取得しました。

全国の農業大学校で牛・豚・鶏の3種類の家畜で認証を取得したのは初となります。



千葉農大商店模擬会社

学生が会社経営を模擬体験することにより、ビジネス感覚に富んだ農業経営を学ぶとともに、学習意欲の向上と企画力、提案力、想像力、行動力、チームワーク力の向上を図り、自ら考えて行動できる資質が育ちます。

●模擬会社の運営を通じた農業経営の学び

- 研究科生全員が模擬会社の社員となり、業務を役割分担し、主体的に運営を行っています。
- 農産物生産、販売、財務、企画等農業ビジネスを実践し学びます。
- ブルーベリーの生産を行い、令和4年度から本格的に観光農園を運営しています。
- 露地・施設ほ場において、学生が生産計画を立て、ネギやジャガイモ、えだまめ、メロンなどを生産し、更に各専攻教室等(学校)から農畜産物を仕入れ、直売等で販売しています。



●社員総会

- 10月の社員総会で運営を2年生から1年生へバトンタッチ。
- 社長、副社長の他に、社員は生産部・販売部・広報部・財務部・総務部に所属し模擬会社を運営します。



6次産業化の技術を習得

●6次産業化実習(農学科)

農学科の食品加工実習では、農産物の生産(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)まで取り組む6次産業化について知識を習得します。農産物の加工技術の基礎や原理について学び、農産物を活用した食品加工技術を身に付けています。

●加工・商品開発演習(研究科)

研究科の加工・商品開発演習では、テーマとする農産物を取り上げ、商品化に向けて農産物マーケティングを学びながら、年間を通じて加工演習に取り組んでいます。消費者ニーズの把握、商品コンセプト、試作・テスト販売等、研究科2年間をかけて加工商品開発の実践を通じて、知識・技術を習得します。

